

宇部工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	国語 I B	
科目基礎情報						
科目番号	41002		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	物質工学科		対象学年	1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	「精選国語総合 改訂版」(三省堂)、「ステップアップ高校漢字問題集」(東京書籍)、「カラー版新国語便覧」(第一学習社)					
担当教員	薄井 信治					
到達目標						
①漢文や漢詩の背景と要点を理解でき、短い説明文が書ける(復習カード、定期試験) ②漢文や漢詩、漢語についての質問に答えられる(口頭試問、定期試験) ③漢詩を鑑賞し、鑑賞文を指定の形式で書ける(レポート) ④訓点や句法を理解できる(定期試験、小テスト) ⑤漢文の教材を用いた意見文が書ける(レポート)						
ループリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安		
評価項目1	復習カードに、要点を適切な説明文で3行以上、3つ書ける。	復習カードに、要点を3行以上、2つ書ける。	復習カードに、要点を簡条書きで3行以上、3つ書ける。	復習カードが提出できない。		
評価項目2	口頭試問に9割以上正答できる。	口頭試問に8割以上正答できる。	口頭試問に7割以上正答できる。	口頭試問に5割しか正答できない。		
評価項目3	漢詩の鑑賞文を指定の形式で、かつ説得力ある文章で書ける。	漢詩の鑑賞文を指定の形式と字数で書ける。	漢詩の鑑賞文を指定の形式で書ける。	漢詩の鑑賞文を提出できない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	第3学期開講。検定教科書を用いる。授業では音読と訓点に重点を置く。詩文の背景の説明を詳しく行う。					
授業の進め方・方法	教科書本文を読解し、内容理解の確認のために口頭試問を行う。					
注意点	漢文は非常に完成度の高い人工言語である。そして訓読漢文は日本人が血肉としてきたものである。訓読することで、省略されることの多い主語や目的語が分かり、品詞や時制が分かるようになる。日本語は、いつ、どこで、だれが、といったことを曖昧なままで使うことができる言語である。そんな日本語にとって、訓読漢文は外してはならない芯なのである。訓読漢文に親しみ、読めるようになって、日本語の力を向上させて欲しい。					
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	1週	ガイダンス(漢文入門)①	漢文を学習する意味を理解できる。訓読を理解し、訓読漢文の読み方を理解できる。			
	2週	(漢文入門)②	漢文を学習する意味を理解できる。訓読を理解し、訓読漢文の読み方を理解できる。			
	3週	(漢文入門)③	漢文を学習する意味を理解できる。訓読を理解し、訓読漢文の読み方を理解できる。			
	4週	(故事成語)①	「故事成語」の文章を元に訓読漢文の読み方を理解できる。			
	5週	(故事成語)②	「故事成語」の文章を元に訓読漢文の読み方を理解できる。			
	6週	(漢詩)①	漢詩とはどういうものかを理解できる。 ・唐詩の読解の仕方を理解し、鑑賞できる。			
	7週	(漢詩)②	漢詩とはどういうものかを理解できる。 ・唐詩の読解の仕方を理解し、鑑賞できる。			
	8週	(漢詩)③	漢詩とはどういうものかを理解できる。 ・唐詩の読解の仕方を理解し、鑑賞できる。 ・鑑賞文の書き方を理解でき、実際に鑑賞文を書くことができる。			
	4thQ	9週	(史話)①	「史話」の文章を元に史話の読み方を理解できる。		
		10週	(史話)②	「史話」の文章を元に史話の読み方を理解できる。		
		11週	(論語)①	「論語」を読み、孔子や弟子の生き方、考え方を理解できる。		
		12週	(論語)②	「論語」を読み、孔子や弟子の生き方、考え方を理解できる。		
		13週	意見文を書く①	「論語」の文章を元に意見文を書く準備ができる。		
		14週	意見文を書く②	「論語」の文章を元に意見文を書くことができる。		
		15週	定期試験			
		16週	試験返却・解説	試験解説により、訓読漢文についての理解を深める。		
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3		
			論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べるができる。	3		

			文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるができる。	3	
			常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
			類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
			社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
			課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	2	
			相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
			新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	2	

評価割合

	試験	小テスト	レポート	口頭試問	復習カード	合計
総合評価割合	60	10	10	10	10	100
知識の基本的な理解	40	10	10	10	10	80
思考・推論・創造への適用力	20	0	0	0	0	20
汎用的技能	0	0	0	0	0	0